

ひさまつ かいじんさい

久松の海神祭 (ハーリー)



まいとしきゅうれき 毎年旧暦の5月4日を迎えると、海にゆかりのある地域では、海上安全と豊漁を願う「海神祭」が行われます。松原・久貝では、もともとふたつの集落が別々で催していましたが、現在は合同で行っており、久松地域で最も大きな祭りです。

各集落の御嶽で祈願をし、神事としてのウガンバーリーと余興の本バーリーを行います。その後、魔除けと海上安全を祈った獅子舞いや奉納角力などが行われます。神事の場合の角力は勝敗をつけず、一勝一敗一引き分けがしきたりです。

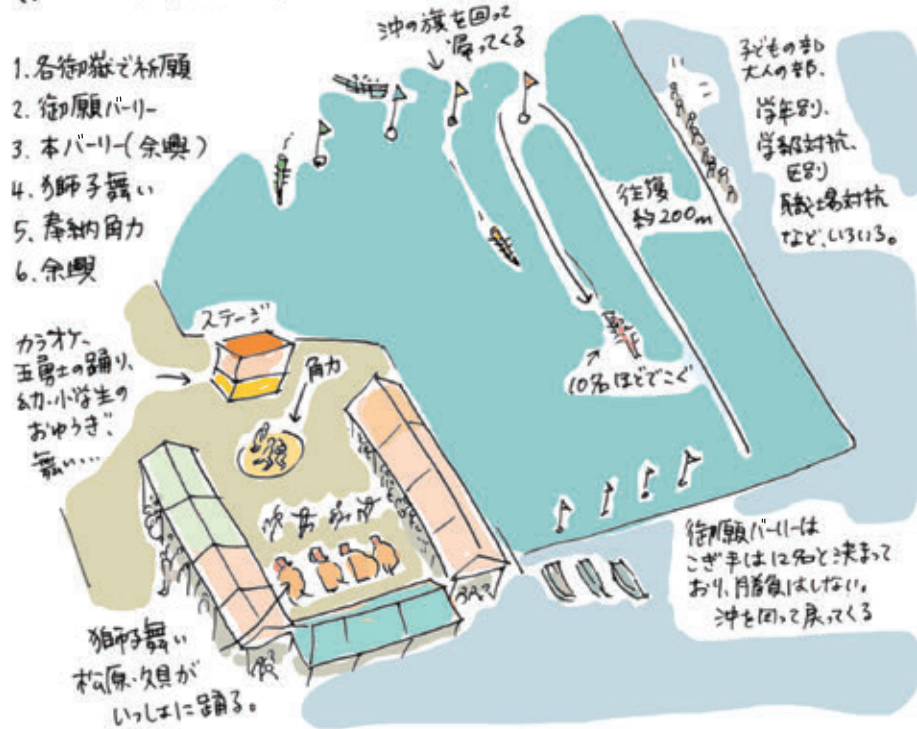
ハーリー (爬龍舟)

起源は中国。1392~1405年頃に琉球へ伝わり、宮古へは糸満の漁師甲が伝えた。



《久松の海神祭》

1. 各御嶽で祈願
2. 御願バーリー
3. 本バーリー(余興)
4. 獅子舞
5. 奉納角力
6. 余興



松原・久貝 (久松)

まつ ばら し し ま

松原の獅子舞い(シーシャ)



かいじん さい さい かいがん ばた ひろ ば かいじょう
海神祭の際に、パイザキと呼ばれる海岸端の広場で、海上
あん ぜん ぼうりょう き がん まよ おど
安全や豊漁祈願、魔除けをかねて舞い踊ります。

ぶん かい ざい してい まつ ばら く がい どう よう
文化財の指定は松原のみですが、久貝にも同様の獅子がお
きん ねん ころ どう かしら たいしょうが
り、近年は合同で踊られています。松原の獅子の頭は大正元
ねん する だい め
年と記されており、今の頭は4代目だと言われています。

ほか ち いき きょうそう おも
宮古の他の地域の海神祭はハーリー競争が主で、獅子舞い
えん しゅうらく
が演じられるのは、松原・久貝集落だけです。

松原と久貝の獅子舞い



すまう 沖繩の角力

- お互いが腰ひそを
持ち、組みあてから
技をかけていく。
- 相手の背中が
ついたら勝ち
土俵から
出て、手足を
ついたらOK



奉納角力
善女50才の長男がとる。
松原・久貝が一勝一敗
したあと、3回目は
「月着負をつす」に引き
分けるのが慣わし。

昔は奉納角力だけ
だったが、最近では
余興角力もやるよう
になった。

まつ ばら
く がい
し し ま
松原・久貝(久松)

ひさ まつ ご ゆう し けん しょう ひ 久松五勇士顕彰碑



サバニを形どった碑

1905(明治38)年の日露戦争当時、ロシアのバルチック艦隊が宮古近海を北上するのを領民が発見しました。宮古に通信手段がなかったため、久松の若者5人が選ばれ、約120キロ離れた石垣島へサバニを漕ぎ行き、「敵艦見ゆ」の電報を打たせました。その功績は戦時中、戦意高揚に利用されました。のちに高い航海能力と強い責任感を讃えて顕彰碑が建てられ、現在は五勇士にちなんだ行事が催されています。



と い ひさまつ ご ゆうし か いめい 問：久松五勇士のなぞを解明せよ

五勇士の記録は諸説あります。

【早すぎた説】平良市史に記された与那覇蒲氏の証言では、旧暦4月14日(新暦5月18日)に大泊を出発、大本営への打電は翌日と書かれています。

【僅差説】1934(昭和9)年の新聞によると、出発は新暦5月26日で、打電は翌27日となっています。その電報より数時間前に信濃丸がすでに打電しており、「遅かりし1時間」と誇張されて取り上げられました。

【一日遅れ説】大本営宛ての電文によると、八重山からの打電は5月28日となっており、信濃丸より丸1日遅れていたこととなります。他にも、石垣島までの行程の途中、水納島へ寄港してひとり加わった、着いた地で疲れ果て1日寝てしまった、陸路を30キロ歩いたなど、実に様々です。



五勇士上陸之碑

与那覇蒲氏の証言による行程のイメージ



与那覇 蒲 (字久貝)
明治17生、久松五勇士の
一員として舟に乗る
参照:平良市史(1978)資料編2
近代資料編 p189
久松五勇士史実調査書
「伝令」通航途上ノ状況並感想
字久貝 与那覇蒲氏ノ談ニ寄ル

ウブドマーラ (大泊) 御嶽



※御嶽は祭祀などを行う大切な場所です。神聖な場所なので入らないようにしましょう

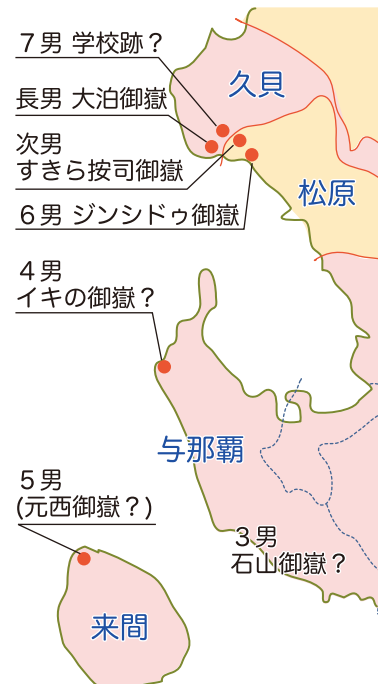
ウブドマーラ御嶽は、松原・久貝の重要な祭祀には必ず拝まれています。ピアダ御嶽とも呼ばれ、祭神は『琉球國由来記』によるとオモイマラとマツメガの男女神とありますが、『宮古島庶民史』では唐から渡ってきた7人兄弟のうちの長男とされ、唐の主であるとされます。集落には、唐から7人兄弟が漂着して村を広げ、文化を発展させたことで祀られるようになったという伝承があります。



7人兄弟を探せ!

『宮古島庶民史』によると、「長男は大泊御嶽、次男は久貝村すきら按司御嶽、3男は与那覇村石山御嶽、4男は与那覇村池崎御嶽、5男は来間島西御嶽、6男は松原村、7男は久貝村(学校跡)に祀られている。この唐人渡来の伝説は与那覇村や来間島にも同様に伝わる」と書かれています。平良市史の御嶽編に、3男の石山御嶽以外はそれぞれに該当しそうな御嶽がありました。定かではありません。

また、来間島の西御嶽に7人兄弟の伝承はなく、地元の人にもわからないとのことでしたが、久松の人が降り立ったという浜があったり、祭祀の唄の中に大泊という言葉が出てきたりと、なんらかの関係があったことが伺えます。



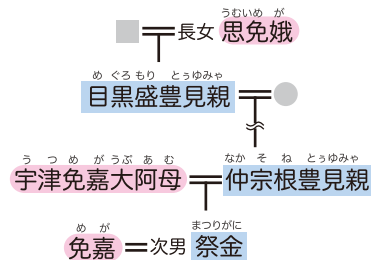
松原・久貝(久松)

歴史を作った!? 野崎嫁

野崎出身
が9割!?

長井の里の真氏 炭焼太良

『宮古島記事仕次(1748)』などによると、野崎村の長井の里の真氏が西銘の炭焼太良に嫁ぎ、長女は目黒盛豊見親を産んでいます。その5代裔孫が仲宗根豊見親となり、その妻もその後継者の妻も野崎生まれ。もしや宮古の歴史を作ったのは野崎の妻たち!?



久松みゃーか (巨石墓) 群



久貝ぶさぎ

久松みゃーかは、14~16世紀頃に建造され、かつては松原・久貝にまたがって多数あったと考えられています。現在、松原3基、久貝1基のみが市指定の文化財になっています。

久松ではみゃーかのことを古くから「ぶさぎ」と呼んでおり、4基の中で最も大きい久貝ぶさぎは、仲宗根豊見親の妻ウツメガの父、安嘉宇立親の墓といわれています。

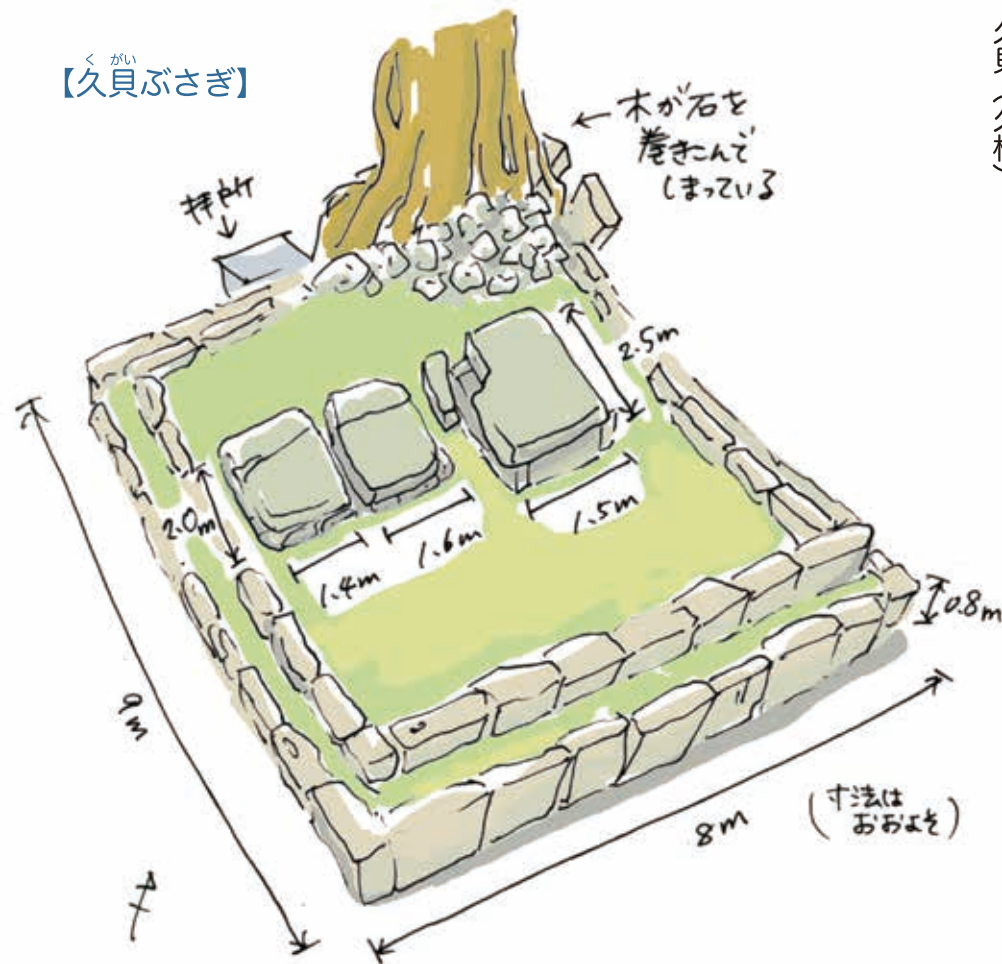


松原ぶさぎA



松原ぶさぎB

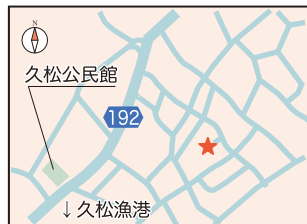
【久貝ぶさぎ】



ウプザー御嶽 (ソムヌ主御嶽)



この御嶽は「芋の主御嶽」とも呼ばれる御嶽で、宮古に唐芋(サツマイモ)を広めた人物のひとり、ウプザーガーラを祀っています。1597(万暦25)年頃、砂川親雲上旨屋の一行の船頭だったウプザーガーラは、台風で漂着した明から芋を持ち帰ります。これが宮古全島に広まり、芋伝来の恩人として祀られるようになりました。砂川親雲上旨屋もまた、芋の主[※]として西仲宗根に祀られています。



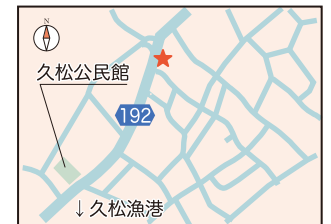
※綾道・平良北コース P38 参照

クジナ (久知名) 御嶽



この御嶽の祭神は久知名按司とその妻ウヤンマの夫婦神です。14世紀の中頃、各地を侵略していた与那覇ばらの集団が、野崎村を襲撃しようとした時、久知名按司が巧みな策略を用いたので、知恵や策に長けた村は攻めにくいと諦め、隣のミヌズマ集落を全滅させます。このことから按司は村の救い主として祀られました。

今ではその英知から学問に関する神として、合格祈願などがされています。



ミヌズマ遺跡の井戸



『宮古史伝』によれば、与那覇湾に面した標高5～15メートル程の低丘陵地に、西美野・美野・美野我麻といった集落が形成されていました。14世紀の中頃、勢力拡大を目論む与那覇ばらの軍勢に襲われ、一夜にして滅ぼされたといわれています。

井戸はおよそ8メートルほどの深さの掘り抜き井戸で、周囲の壁面には土止めの石積みが施されています。



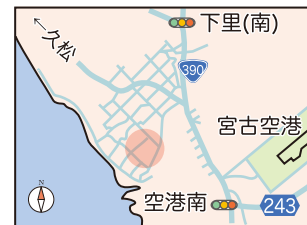
ミヌズマ遺跡



調査範囲

ミヌズマ遺跡は11～15世紀にかけての集落遺跡で、周辺ほぼ場整備に伴い、2012～2013年度に発掘調査が行われました。調査面積は約36,000平方メートルにおよび、島内最大規模の集落遺跡で、掘立柱建物跡や炉跡、埋葬人骨などが検出されたほか、中国産陶磁器や土器などが数多く出土しました。

現在は、ほぼ場整備が完了し、遺跡を見ることはできません。



ミヌズマ遺跡発掘調査報告

ミヌズマ遺跡の発掘調査で、多くのことが明らかになってきました。33基もの掘立柱建物跡が検出され、柱穴から滑石混入土器、カムイヤキ、白磁玉縁碗などが出土し、11～12世紀代を示すものも確認されています。また、2基の炉跡から採取したコムギ・オオムギの種子は、13世紀後半～14世紀中頃という年代測定値を示しています。これまで宮古島最古の穀物は16世紀前半～17世紀前

調査区域の航空写真(2012年)



建物の形態は、上空から穴の配置を見て規則性を見出して判断することも。700～800個の穴が発見されているが、全て柱の跡ではなく、用途不明の穴も多い。

半とされてきましたが、ミヌズマ遺跡より出土したこれらの種子により、300年近く遡ることとなり、宮古島の農耕を考古学的な方面からも実証づける発掘調査であったといえます。

また、その時代、動物遺体として圧倒的にウシが多く、家畜として飼っていたことや、骨に残されたカットマークなどから食料とされていたこともわかっています。



6本柱の建物が複数並んでいる



第4号人骨(11～12世紀)成人・女性。足を折りたたんで埋葬されている



遺物出土状況。13世紀後半～15世紀後半にかけての中国産陶磁器が主体



復元された白磁・青磁



炉跡より検出された植物の種子(13世紀後半～14世紀中頃)



安山岩、玄武岩、輝緑岩、砂岩、緑色片岩など、宮古には存在しない岩石

スキラズマダニアーズ御嶽



この御嶽には、^{はいしょ} 拝所がふたつあり、^{うえ} 上の拝所にはスキラ^あ 按司が、^{した} 下の拝所にはマダニアーズが祭神として祀られています。祭神については、さまざまな^{でんしょう} 伝承があり、^{とう} 唐の7人兄弟のひとりが^{しん} 按司神となったという^{せつ} 説、マダニアーズはスキラ^{つま} 按司の妻であるという^{くがいむら} 説、久貝村がスキラ^{さと} 里という地名だったころの^{ちめい} 按司の名前であるという^{ゆらい} 説など、由来ははっきりしていません。



宮古の氏姓から歴史を読み解く

宮古の士族の姓

氏	よみ	名乗頭
白川	しらかわ	恵
忠導	ちゅうどう	玄
根馬	ねま	定
玻立	はだて	泰
仲立	なかだて	幸
英河	えいか	真
河充	かわみつ	真
真世	しんせい	平
長真	ちようしん	旨
宮金	みやがね	寛
南興	なんこう	明
染地	そめじ	実
伊安	いあん	方
土原	たんばる	春
浦渡	うらと	常
奉始	ほうし	財
造宮	ぞうえい	布
捧銭	ほうせん	建
尚裔	しょうえい	朝
馬続	ばぞく	良
英俊	えいしゆん	恒
衡平	こうへい	知
候隆	こうりゅう	正
蔡孫	さいそん	武
思明	しめい	常
武裔	ぶえい	喜
益茂	ますも	昌
雍姓	ようせい	興
姚孫	ようそん	元
和種	わしゆ	景

●始祖:与那覇勢頭豊見親
宮古の歴代頭職111名中35名は白川氏

●始祖:仲宗根豊見親 17名の頭職を輩出

●始祖:目黒盛豊見親

●始祖:友利大殿 八重山のアカハチ討伐 (1500年) 功をたてた金志川兄弟の父

●始祖:川満大殿 下地地方で仁政を施した

●芋の主御嶽の祭神、砂川親雲上旨屋(長真氏旨屋)の一族。

●始祖:知利真良豊見親
仲宗根豊見親の3男。12名の頭職を輩出

●伊良部島で人食い鮫を退治した豊見氏親の一族

●始祖:土原豊見親 八重山のアカハチ討伐で仲宗根豊見親の配下として功をたてた

●割重殺事件で功をたてた本村朝祥の一族

●沖繩系の氏姓。『宮古史伝』の著者慶世村恒任の一族

●沖繩系の氏姓。6人の頭職を輩出。西ツガ墓の所有者

家譜は系図とも呼ばれ、琉球王府時代に士族に対してのみ作ることを許されたもので、家譜の有無によって、士・農の分離がはっきり示されたといわれています。

宮古の家譜の特徴は、氏姓が沖繩本島の「尚」や「毛」のような一文字ではなく、すべて二文字になっていることです。また、白川氏であれば「恵」、忠導氏であれば「玄」というように、特定の漢字を名前に入れ、それを代々継承しています。宮古では、66の氏姓が知られています。

松原・久貝(久松)

文化財の体系図

文化財の種類

特に価値の高いもの

特に重要なもの

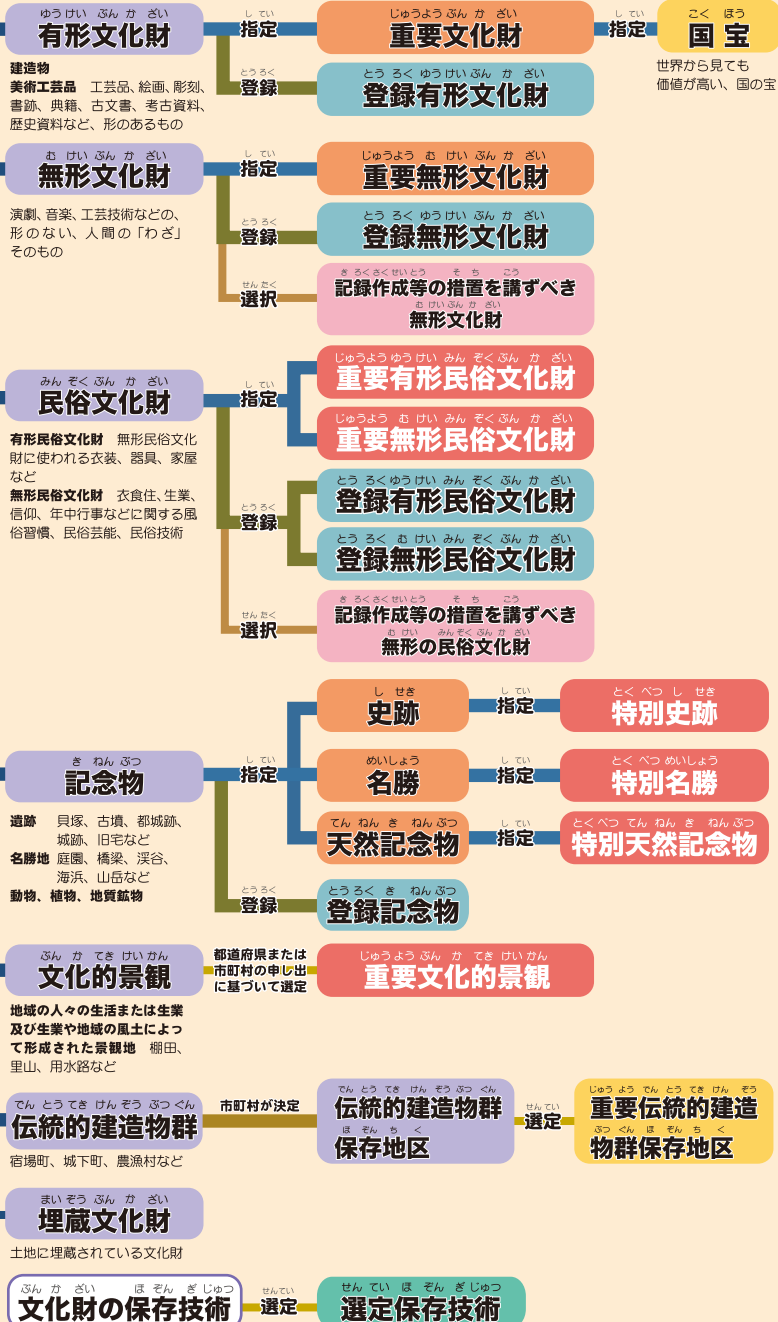
重要なもの

文化財

特に必要のあるもの

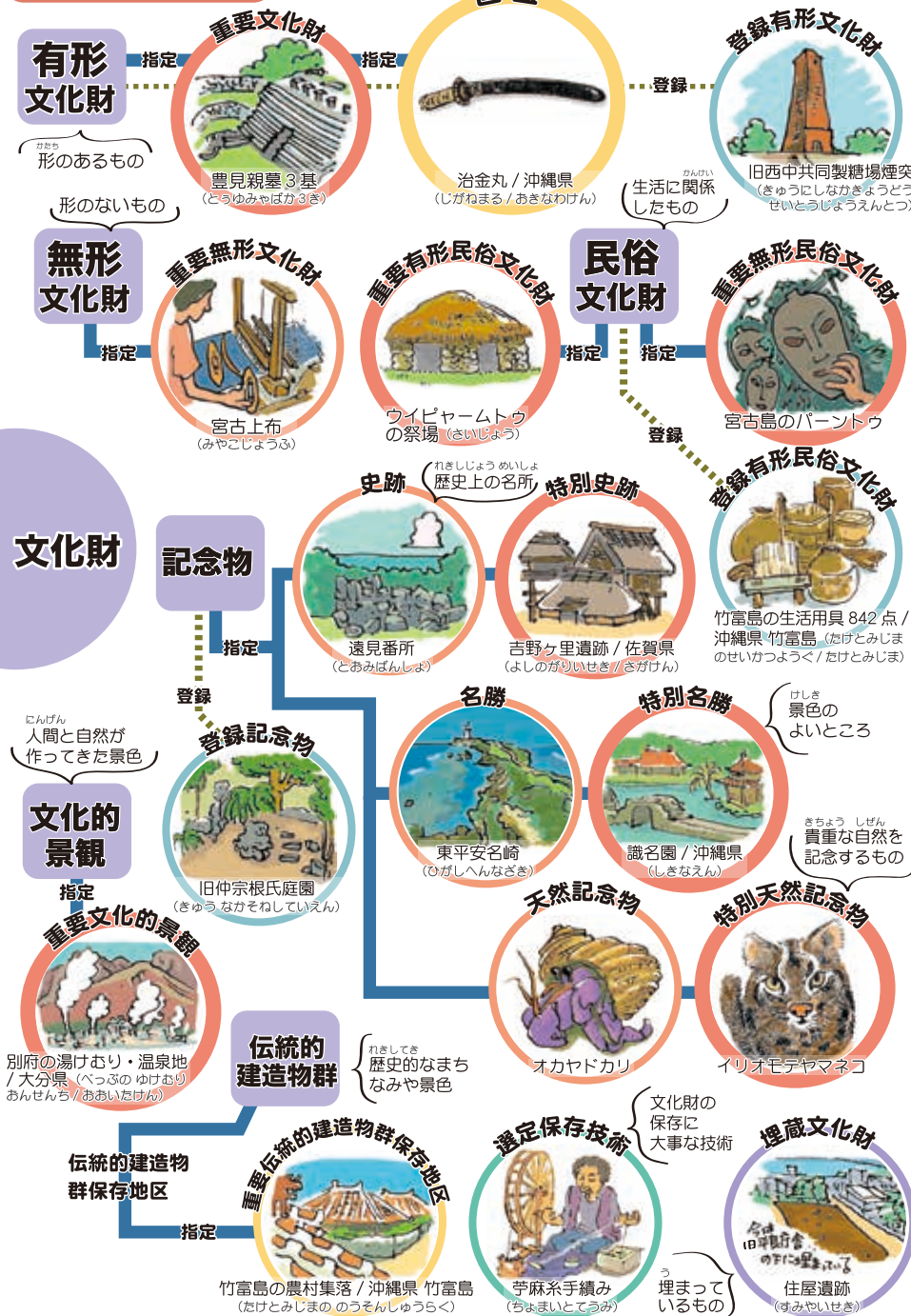
保存と活用が特に必要なもの

保存できるよ考えの必要のあるもの



それぞれの文化財の一例

※宮古島市や、沖縄県、九州にある文化財の一例



わたし ぶん か ざい
私たちの文化財です

たい せつ
大切にしましょう

ぶん か ざい きょ か む だん げんじょうへんこう
文化財を許可なく無断で現状変更する
ことは法律で禁止されています。



この冊子は非売品です (NOT FOR SALE)

宮古島市neo歴史文化ロード 綾道(平良南/松原・久貝コース)

発行 初版 2018(平成30)年 3月
改訂 2025(令和 7)年10月

編集・発行 宮古島市教育委員会
〒906-0103沖縄県宮古島市城辺字福里600番地1
TEL 0980-77-4947 FAX 0980-77-4957

イラスト・デザイン 山田 光